

文末に用いる“期待”について
The Semantic Feature of “*qidai*” at the end of Sentences

胡 杰

HU Jie

内容提要

本文将以命题逻辑和谓词逻辑为基础理论的逻辑表达式对用于句末的“期待”进行详细分析。第一章主要介绍形式语义学的基本思想。第二章将叙述用于句末的“期待”的使用状况。第三章将对第二章所举出的例句进行详细分析，并讨论为什么“u 期待”不能成立，为什么光杆的“期待”不能用于句末。

キーワード：論理式、命題論理、述語論理、十分条件、心理動詞

目次

0. はじめに

1. 命題論理と述語動詞論理

2. “期待”に関する言語資料調査

3. 文末に用いる動詞“期待”に関する語彙的な意味と構造分析

4. おわりに

0. はじめに

劉月華の行った動詞分類に基づけば、“期待”は状態動詞に属し、人の心理状態を表す。多くの研究者は“期待”を心理動詞としている。本稿では大多数の研究者に倣い“期待”を心理動詞という。“期待”は、文中ではよく見かける単語のひとつだが、中日両言語では用法に若干の違いがある。“期待”を心理動詞として文末に用いる場合、学生の書く文中によく次のような文を見かける。

場面：ある男子学生がある授業に新しく入ってきた女子学生に好感を持つと、男子学生はまた次回の授業で会いたいと期待する。そして友人に次のように話しかける。

会話：“下次她来上课吗？我期待。”「次回、あの子は授業に出るだろうか。僕は期待しているんだけど。」

上記の一言“我期待。”「僕は期待しているんだ。」に問題がある。この文を直すのは簡単で、“期待”の前に“很”を加えれば良い。日本語では「期待している」だけで良いが、中国

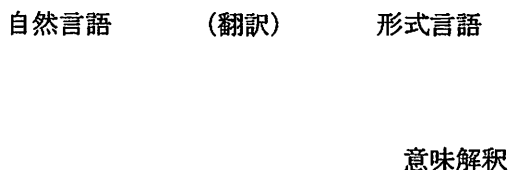
語では“我很期待。”と表現しなければならない。

名称格¹⁾ “期待”はなぜ文末に用いることができないのであろうか。あるいは“某人期待。”はなぜ文として成立しないのであろうか。心理動詞“期待”として文末に用いる場合、“期待”と文はどのような関係にあるのだろうか。これが本稿で採り上げる問題点である²⁾。

1. 命題論理と述語動詞論理

形式意味論では自然言語を直接解釈するのではなく、自然言語を形式言語に翻訳し、形式言語の語意解釈を通じて、自然言語に意味解釈を与えるのである。この過程は以下の「図1」のように示すことができる。

[図1] 自然言語と形式言語との関係



本節では最も基本的な形式言語の「命題論理」と「述語論理」に対し、分かりやすく説明をする。これは本稿で採る論理式の基礎となる根幹である。

1.1 命題

自然言語の中では、同一の状況は異なる文で表現できる。

- (1) a. John and Mary are students.
ジョンとメアリーは学生です。
- b. Mary and John are students. (杉本 1999: 70)
メアリーとジョンは学生です。

例(1)のaとbが描写する状況を論理学では「命題」と言う。そこで、aとbは同一の命題だと言えるのである。

¹⁾ 「名称格」とは言語学研究会で使用する学術用語である。一般にはよく「裸格」または「ゼロ格」と言われている。

²⁾ 筆者は日本中国語学会関東支部月例会(2019年11月、大東文化会館)の会場で、本テーマと同様のテーマ(关于用于句末的“期待”)で発表をした。その際、各先生から貴重なご意見を伺った。筆者はそれに基づき大幅な拙論の修正を行った。各先生に衷心より、お礼を申し上げる。本論文の中国語版は神奈川大学人文研究所報 No. 63(2020年3月)に発表される予定。

1.2 命題論理

命題論理は命題と命題との関係を研究する理論であり、各命題の内部に存在する内容にまでは入らないが、「命題がどのような条件で真であるか」「妥当な推論とは何か？」が討論の焦点となっている。

一つの文（あるいは一つの命題）は変項として「 p, q, r 」によって表される。命題と命題との関係は接続詞（本稿では“&”和“ \wedge ”などの接続詞を用いる。）によって決定される。

(2) $p \& q$

一般に (2) の形式を用いる命題に対して、その真理条件は次のように記述できる。

(3) 命題 $p \& q$ の p と q が同時に真であるならば真であり、これ以外は偽となる。

(3) の真理値の条件は、以下の真理値表 (truth-table) [表 1] で表せる。

[表 1] 真理値表

p	q	$p \& q$
1	1	1
1	0	0
0	1	0
0	0	0

本表の 1 は真を表し、0 は偽を表す。 p と q の真理値に基づき $p \& q$ の真理値が判断できる。

1.3 述語論理

述語論理は自然言語の内部構造を研究する言語である。たとえば、以下の文で説明してみよう。

(4) John loves Mary. (杉本 1999: 112)

(ジョンはメアリーを愛している。)

例 (4) の文は述語動詞に焦点を当て、述語論理で表せば、以下のようになる。

(5) $\text{love}' (J, M)$

一つの命題は基本的には述語動詞とその項が満たされることを要求している項の組み合わせとして表現される。述語動詞は性質や関係を表すので、述語動詞が異なれば、対応す

るその項の数量も異なる。項の数の違いにより、一項函数、二項函数、三項函数などと言う。これによれば、例 (5) は二項函数である。

2. “期待”に関する言語資料

筆者は北京大学の語料庫 (ccl) を現代中国語の調査対象とする。“期待”を検索すると、“期待”を文末に用いる例文が 500 例あった。しかし、その中の大多数の“期待”は、以下の例文に見られるように、名詞並みに扱われている例文であった。

(6) 是人们普遍寄予人自身的期待。

(人は一般的に人自身に期待する。)

(7) 把理论推向两个或多个论域, 是此研究领域一个新的期待。

(理論を二つ或いはそれ以上の論域に押し広げることは、この研究領域の新しい期待である。)

(8) 9 月行情, 散户积极入场, 是对 15 大举行的期待。

(九月の株の動きは、個人株主が大幅に買いにまわっているのが特徴だが、これは第 15 回人民代表大会に対する期待があるからである。)

“期待”は単語レベルで見れば動詞³⁾だが、上記 3 例の文末に用いられている“期待”は名詞連語の構造“自身の期待、新的期待、对 15 大举行的期待”の中で名詞並みに扱われている。

“期待”が動詞として文末に用いられるのは以下のような言語環境に限られている。

① “期待”の前に敬語“请”を用いる文

(9) 敬请期待。

(期待しててください。)

② “期待”の前に副詞を用いている文

(10) 交流信息, 不单是书信传递, 苦苦期待。

(人と人との交流は期待して辛抱強く待つ手紙だけの連絡ではない。)

³⁾ 《现代汉语词典 第 7 版》(2016: 1021)によれば、“期待”は動詞だが、名詞連語の中では名詞並みに扱われる。名詞連語“我们大学”の中心語は本来名詞だが、中心語の位置に動詞や形容詞“她的漂亮”を用いても名詞連語が作れる。

- (11) 今年“肯德基”快餐也将进驻新疆，使不少偏爱炸鸡腿的年轻人十分期待。
(今年、「ケンタッキー」が新疆に開店するので、フライドチキンが大好きな若者の期待に十分こたえるであろう。)
- (12) 人们对“软件大国”和“硬件大国”的这一合作前景自然更加期待。
(「ソフト大国」と「ハード大国」の協力関係に対して、人々は一層強い期待を寄せている。)

③ “期待”の前に助動詞を用いる文

- (13) 人们可以期待。
(人々は期待している。)
- (14) 中国的GPS产业的明天值得期待。
(中国のGPS産業の将来は期待できるものである。)

④ “期待”を用いる使役文

- (15) 每年的国庆长假，总是让人期待。
(毎年の国慶節の長期休暇は、いつも人々に期待されている⁴⁾。)
- (16) 两支队伍的最后较量将令人期待。
(二チームの最後の試合に人々は期待を寄せている。)

⑤ “期待”の前に現在時間副詞⁵⁾“在”を用いる文

- (17) 电脑连上全球信息网络，共享信息为期尚远，但人们也在呼唤，也在期待。
(パソコンがインターネットにつながっても、すべての情報を共有することには程遠いが、人々はそれを必要としているし、期待もしている。)
- (18) 张伯驹看着慧素，似乎在期待。
(張伯駒が慧素を見ながら、期待しているようだ。)

⁴⁾ 例 (15) は中国語では使役文だが、日本語では受身文として訳している。これが可能なのは、日本語にヴォイスの体系があるからである。

⁵⁾ 中国語のテンスは時間名詞“上古、去年、今天”と時間副詞によって表す。時間副詞は過去時間副詞“曾经、已经”、現在時間副詞“在、正”、未来時間副詞“将、未曾”の三種類に分かれる。なお、現在時間副詞“在、正”は「ちょうど、まさに」の意味であり、多くの辞典では進行を表す「～シテイル」と訳されているが、これは日本語が「ちょうど/まさに～している」と呼応するので、そう訳されているだけであり、“在、正”には「～シテイル」の意味はない。

⑥ “期待”を並列する単語として用いる文

(19) 他茫然，惶惑，期待。

(彼は茫然とし、困惑し、期待している。)

(20) 低下头来祈祷，期待。

(うつむいて祈り、期待している。)

筆者は以下で“期待”を文末に用いる文の意味と構造を分析し、文末に用いる動詞“期待”の特徴を明らかにする。

3. 動詞として文末に用いる“期待”の意味と構造

以下では第2節に倣い、文末に使われている“期待”の意味と構造を分析する。

3.1 “期待”の前に敬語“请”を用いる文

(9) 敬請期待。／期待しててください。

例(9)の文は“某人敬請某人期待”「ある人がある人に期待をしてもらいたい」と理解できるので、述語動詞は“敬請”であり、三項関数とみなせる。“敬請’ {某人，某人，某人期待}”は、“敬請’”関数の第3項“某人期待”にも述語動詞ひとつが含まれていることが分かる。“某人期待”を“期待’ (某人)”と一項関数に書き直すことができる。そのため、例(9)は二つの命題を含んでいるとみなせる。例(5)の文中に現れない“某人”は“ u^6 ， v^7 ”で表せば、例(9)の論理式は

(9)’ 敬請’ [u ， v ，期待’ (v)]⁶

となる。“ u 敬請 v ， v 期待”と読むのがいいだろう。(9)’を分析する前に、まず「充分条件」を説明する必要がある。含意関係でもある。「 $A \rightarrow B$ 」(A であれば B)の図式が成立するときは「 A は B の充分条件」である。

この場合、条件命題 A は A 以外にも A' 、 A'' ……などが存在する可能性がある。このことにより、「 $B \rightarrow A$ 」(B であれば A)の図式は不成立となる。すなわち、ここの「充分条件」は A から B 成立するだけで、 B から A の成立しない一方通行なのである。(9)’の論理式には、

⁶ “ u ”は、ここでは変項を表す。

⁷ “ v ”も、ここでは“ u ”と同じように変項を表す。

⁸ 本稿ではロジック表現形式の中で“()”、“{ }”、“[]”などの括弧記号を用いる。

“()”の管轄区域が最も小さく、“[]”の管轄区域が最も大きい。次のように示せる。 α . () < { } < []

“期待’ (v)” と論理式全体が含意関係にあることが分かる。以下のように図表化できる。

a. 敬请’ [u, v, 期待’ (v)] → 期待’ (v)

a は「u 敬请 v 期待であれば、v 期待」と読める。「v 期待であれば、u 敬请 v 期待」は成立しない。これにより、“敬请’ [u, v, 期待’ (v)]” は“期待’ (v)” の充分条件が得られる。

3.2 “期待” の前に副詞のある文

(10) 交流信息，不单是书信传递，苦苦期待。

(人と人との交流は期待して辛抱強く待つ手紙だけの連絡ではない。)

例(10)の“苦苦”「辛抱強く」は様態副詞である。“苦苦期待”が表す意味は「ある人が“苦苦”の状態を“期待”を持つ」ことなので、“苦苦期待”を一項函数の“苦苦’ (某人期待)”に書き換えることができる。“苦苦’ (某人期待)”は一項函数だが、その項に述語動詞“期待”がひとつ含まれることに気がつく。これにより、“某人期待”を“期待’ (某人)”のように一項函数によって示すことができるのである。文中に現れない人を“u”で表し、“苦苦期待”を論理式で翻訳すれば、次のように表せる。

(10)’ 苦苦’ [期待’ (u)]

(10)’ の論理式は“u 期待, (有) 苦苦(的状态)”「u の期待には、辛抱強い(状態がある)」となる。“苦苦’ ”は、ここでは一項函数であり、“期待”の状態を表す。(10)’ の中で“期待’ (u)”が論理式で表す第一項である。すなわち“期待’ (u)”と(10)’ の論理式の間には含意関係があるということであり、以下のように示すことができる。

b. 苦苦’ [期待’ (u)] → 期待’ (u)

b は“如果 u 苦苦期待的话，那么 u 期待”「u が辛抱強く期待して待つのであれば、u が期待する」と読める。しかし“如果 u 期待的话，那么 u 苦苦期待”「u が期待するのであれば、u が期待して辛抱強く待つ」は成立しない。従って、“苦苦’ [期待’ (u)]” は“期待’ (u)” の充分条件なのである。

(11) 今年“肯德基”快餐也将进驻新疆，使不少偏爱炸鸡腿的年轻人十分期待。

(今年、「ケンタッキー」が新疆に開店するので、フライドチキンが大好きな若者の期待に十分こたえるであろう。)

討論の焦点を曖昧にさせないために、ここでは(21)“年轻人十分期待”に絞って議論を進める。この連語の表す意味は“年轻人期待，年轻人期待的程度是十分”「若者が期待する程度は充分である」と理解できる。まず初めに“年轻人期待”を論理式に翻訳すると、“期待”は述語動詞なので、一項函数“期待’(年轻人)”に翻訳できる。“年轻人期待的程度是十分”は二項函数“有’[期待’(年轻人)，十分]”に翻訳できる。それゆえ、(21)の連語は論理式で表せば、次のようになる。

(21)’ 期待’(年轻人) & 有’[期待’(年轻人)，十分]

(21)’の論理式は“年轻人期待，年轻人期待的[程度]是十分(的程度)”「若者が期待するのは、[程度]が充分(な程度)である」と読める。“期待’(年轻人)”と“有’[期待’(年轻人)，十分]”との間にも含意関係があることが分かる。以下のように説明できる。

c. 有’[期待’(年轻人)，十分]→期待’(年轻人)

cは“如果有年轻人十分期待，那么年轻人期待”「十分に期待する若者がいれば、若者は期待する」は、文“如果年轻人期待，那么有年轻人十分期待”「若者が期待すれば、十分に期待する若者がいる」として成立しない。そのため、“有’[期待’(年轻人)，十分]”は“期待’(年轻人)”の充分条件である。同時に副詞の“十分”も“期待’(年轻人)”の量を付与する。すなわち、“十分”な量である。

(12) 人们对“软件大国”和“硬件大国”的这一合作前景自然更加期待。

(「ソフト大国」と「ハード大国」の協力関係に対して、人々は一層強い期待を寄せている。)

(11)と同様、議論の焦点を曖昧にしないため、(12)を“(22)人们更加期待”に絞って議論を進める。(22)で表現したい意味は“人们期待，且人们期待的程度是更加”「人々が期待し、かつ人々が期待する程度はいっそうである」である。文全体の中には二つの命題が含まれている。“人们期待”と“人们期待的程度是更加”であり、かつ二つの命題の関係は“&”の関係である。まず“人们期待”を論理式に書き換えれば、“期待’(人们)”となるだろう。続いて“人们期待的程度是更加”を論理式に書き換えれば、“有’[期待’(人们)，更加]”となるであろう。こうであるならば、(18)全体を論理式で現せば、以下のようになるだろう。

(22)’ 期待’(人们) & 有’[期待’(人们)，更加]

(22)' は“人们期待，并且人们期待的[程度]是更加(的程度)”「人々が期待し、ならびに人々が期待する[程度]はいっそう(の程度)である」と読める。“期待'(人们)”は“有'[期待'(人们)，更加]”の第一項だと分かるので、両者の間にも含意関係がある。すなわち、以下の図式である。

d. 有'[期待'(人们)，更加]→期待'(人们)

d は“人们更加期待的话，”「人々がいっそう期待するのであれば」であれば、“人们期待”「人々は期待する」である。そうでなければ、成立しない。すなわち、“人们期待”であれば、“人们更加期待”は成立しないのである。“有'[期待'(人们)，更加]”は“期待'(人们)”の充分条件であることが分かる。“更加”は“期待'(人们)”の量を付与している。すなわち、もともとの基礎の上に多くの量をいっそう加えるのである。

3.3 “期待”の前に助動詞を付与する文

“期待”を文末に用いても成立する文として、次の文に見られるように、“期待”の前に助動詞を用いる文がある。

(13) 人们可以期待。

(人々は期待している。)

(13) が表すのは“人们可以，(人们)期待”である。これには二つの命題“人们可以，(人们)期待”と“人们期待”が含まれている。かつ後者の命題は前者の命題に含まれている。それゆえ、(13) を論理式に書き改めれば、次のようになるであろう。

(13)' 可以'[人们，期待'(人们)]

(13)' 論理式では“人们可以，人们期待”と読める。“期待'(人们)”は“可以'”函数の第二項である。すなわち、“期待'”函数と“可以'”函数は包含関係である。すなわち、次のように図式化できる。

e. 可以'[人们，期待'(人们)]→期待'(人们)

e は“如果人们可以期待的话，那么人们期待”と読める。こうでなければ成立しない。すなわち、“如果人们期待的话，那么人们可以期待”「人々が期待するのであれば、人々は期待している」なのである。つまり“可以'[人们，期待'(人们)]”は“期待'(人们)”

の充分条件なのである。

(14) 中国的 GPS 产业的明天值得期待。

(中国のGPS産業の将来は期待できるものである。)

(14) の表す意味は“中国的 GPS 产业值得，某人期待”「中国のGPS産業は、ある人が期待するに足る」である。この中にも二つの命題が含まれる。すなわち、“中国的 GPS 产业值得，某人期待”と“某人期待”とである。後者の命題は前者の命題の中に含まれている。文中には現れていないが、命題中に現れるある人は不特定項“u”で表し、(14) は論理式で次のように表せる。

(14)' 值得' [中国的 GPS 产业的明天，期待' (u)]

(14)' の論理式は“中国的 GPS 产业的明天值得，u 期待”と読める。“期待' (u)”と(14)' も含意関係がある。以下のように表せる。

f. 值得' [中国的 GPS 产业的明天，期待' (u)] → 期待' (u)

f は“如果中国的 GPS 产业的明天值得 u 期待，那么 u 期待”「中国のGPS産業の将来は u が期待できるものであれば、u は期待する」と読める。それゆえ、“值得' [中国的 GPS 产业的明天，期待' (u)]”は“期待' (u)”の充分条件なのである。

3.4 使役文に用いる“期待”

一般には文末に“期待”を用いることはできないが、使役文の文末であれば、以下の例文に見られるように、“期待”を用いることできる。

(15) 每年的国庆长假，总是让人期待。

(毎年の国慶節の長期休暇は、いつも人々に期待されている。)

(15) が表す意味は“国庆长假让人，人期待”「国慶節の長期休暇は人に期待を持たせる」である。この中にも二つの命題“国庆长假让人期待”と“人期待”が含まれている。後者の命題も前者の命題の中に含まれている。それゆえ、(15) の文を論理式で表せば、以下のようになるであろう。

(15)' 让' [国庆长假，人，期待' (人)]

(15)' は“国庆长假让人，(人) 期待” 「国慶節の長期休暇は人に期待を持たせる」と読める。“期待’ (人)” と論理式全体が含意関係にあることがある。これは以下のように示すことができる。

g. 让’ [国庆长假，人，期待’ (人)] → 期待’ (人)

g は“如果国庆长假让人期待，那么人期待” 「国慶節の長期休暇は人々に期待を持たせるのであれば、人が期待する」を表す。これに反すれば、成立しない。すなわち、“如果人期待，那么国庆长假让人期待” 「人が期待すれば、国慶節の長期休暇は人に期待させる」である。それゆえ、“让’ [国庆长假，人，期待’ (人)]” は“期待’ (人)” の充分条件なのである。

(16) 两支队伍的最后较量将令人期待。

(二チームの最後の試合に人々は期待を寄せている。)

(16) の表す意味は“两支队伍的最后较量令人，(人) 期待” 「二チームの最後の試合は人々に期待を持たせる」である。この中にも二つの命題“两支队伍的最后较量令人期待” 「二チームの最後の試合は人々に期待を持たせている」と“人期待” 「人が期待する」が含まれている。この中では後者は前者に含まれている。(15) と同様、(16) の文を論理式で書き直せば、以下ようになるであろう。

(16)' 令’ [两支队伍的最后较量，人，期待’ (人)]

この論理式は“两支队伍的最后较量令人，(人) 期待” と読める。“期待’ (人)” と (16)' には含意関係がある。この関係は以下のように表すことができる。

h. 令’ [两支队伍的最后较量，人，期待’ (人)] → 期待’ (人)

h は“如果两支队伍的最后较量令人期待的话，那么人期待” を表す。これに反すれば文として成立しない。すなわち、“如果人期待的话，那么两支队伍的最后较量令人期待” 「人々が期待すれば、二チームの最後の試合は人々に期待を持たせる」のである。それゆえ、“令’ [两支队伍的最后较量，人，期待’ (人)]” は“期待’ (人)” の充分条件なのである。

3.5 “期待” を用いる “在” 字句

(17) 电脑连上全球信息网络，共享信息为期尚远，但人们也在呼唤，也在期待。

(パソコンがインターネットにつながっても、すべての情報を共有することに

は程遠いが、人々はそれを必要としているし、期待もしている。))

議論の焦点を曖昧にさせないために、引き続き (17) を“(22)人们在期待。”に絞って議論を進める。(22)の文が表す意味は“人们在某个地方,人们在期待”「人々はある場所で、人々は期待している」である。三つの命題“人们在某个地方有某种状态”「人々はある場所である状態にある」、「人们在期待’」人々は期待をしている」、「人们期待这件事情在 u 存在’」人々がを期待していることが u に存在する」に分けられる。(22)を論理式で表せば、以下のようになるであろう。

(22)’ 在’ [人们, u, 期待’ (人们) & 在’ {期待’ (人们), u}]

この論理式は“人们(有), 在 u, (有)人们期待, 并且人们期待这件事在 u 存在, 的状态”と読める。“期待’ (人们)”と(22)’の論理式には包含関係の存在することが分かり、以下のように表すことができる。

i. 在’ [人们, u, 期待’ (人们) & 在’ {期待’ (人们), u}] → 期待’ (人们)

i は“如果人们在 u 期待的话, 那么人们期待”と読める。これに反すれば成立しない。すなわち、「人々が u で期待をすれば、人々は u で期待をする」である。それゆえ、“期待’ (人们)”は(22)’の充分条件である。もう 1 例見てみよう。

(18) 张伯驹看着慧素, 似乎在期待。

(张伯驹が慧素を見ながら、期待しているようだ。)

前文と同様、議論の焦点を曖昧にしないため、(18)“(23)张伯驹在期待。”に絞って議論を進める。(23)の表す意味は“张伯驹有一个状态, 张伯驹在某个地方, 张伯驹在期待”「张伯驹には一つの状態がある、张伯驹はある場所にいる、张伯驹は期待をしている」である。ここには三つの命題が含まれている。(23)を論理式で示せば、以下のようになるだろう。

(23)’ 在’ [张伯驹, u, 期待’ (张伯驹) & 在’ {期待’ (张伯驹), u}]

(23)’の論理式では“张伯驹(有), 在 u, (有)张伯驹期待这件事在 u 存在的状态”と読める。「张伯驹には(ある)、u で、期待するという状態がある」“期待’ (张伯驹)”は“在’”関数は第三項である。二者の間には含意関係があるので、以下のように表すことができる。

j. 在’ [张伯驹, u, 期待’ (张伯驹) & 在’ {期待’ (张伯驹), u}] → 期待’ (张伯驹)

jは“如果张伯驹在某个地方，有张伯驹在期待的状态的话，那么张伯驹在期待”「张伯驹があるところにおいて、期待している状態の张伯驹がいれば、张伯驹は期待している」である。それゆえ、“在’ [张伯驹, u, 期待’ (张伯驹) & 在’ {期待’ (张伯驹), u}]”は“期待’ (张伯驹)”の充分条件なのである。

3.6 “期待”を並列項とする文

“期待”が述語の中に並列されて用いられている場合も名称格だけで“期待”を用いることができる。

(19) 他茫然，惶惑，期待。

(彼は茫然とし、困惑し、期待している。)

(19)が表す意味は“他拥有茫然、惶惑、期待的状态”である。(15)の文を論理式で表せば、以下のようになるであろう。

(19)’ 有’ [他, 期待’ (他) & 茫然’ (他) & 惶惑’ (他)]

(19)’は“他有，他期待并且他茫然并且他惶惑的(状态)”「彼にはある、彼は期待し、彼は茫然とし、彼は困惑している」と読める。“期待’ (他)”は論理式全体の第二項並列項目中の第一項であり、論理式全体と包含関係にあり、以下のように表すことができる。

k. 有’ [他, 期待’ (他) & 茫然’ (他) & 惶惑’ (他)] → 期待’ (他)

kは“如果他有期待茫然惶惑的状态，那么他期待”「彼に期待し、茫然とし、困惑する状態があるならば、彼は期待する」を表している。これに反すれば文は成立しない。すなわち、“如果他期待，那么他有期待茫然惶惑的状态”「彼が期待すれば、彼は期待し茫然とし困惑する状態にある」のである。それゆえ、“有’ [他, 期待’ (他) & 茫然’ (他) & 惶惑’ (他)]”は“期待’ (他)”が成立する充分条件である。もう1例見てみよう。

(20) 低下头来祈祷，期待。

(うつむいて祈り、期待している。)

(20)が表す意味は“某人有祈祷和期待的状态”「ある人は祈り期待している状態にある」である。ある人を“u”で表し、(16)’の文を論理式で表せば、以下のようになるであろう。

(20)’ 有’ [u, 祈祷’ (u) & 期待’ (u)]

この論理式は“u有, u 祈祷并且 u 期待的(状态)”と読める。“期待’(u)”と論理式全体にも含意関係が存在し、以下のように表せる。

1 有’ [u, 祈祷’ (u) & 期待’ (u)] → 期待’ (u)

1は“如果u有祈祷和期待的状态的话, 那么u期待”「uが祈り期待する状態であれば, uは期待する」と読める。これに反すれば成立しない。それゆえ、“有’ [u, 祈祷’ (u) & 期待’ (u)]”は“期待’(u)”が成立する充分条件なのである。

4. おわりに

“期待”は一般には用いることができなく、文末にそれを用いようとするならば、“很期待”と表現しなければならない。しかし、500例の実例調査を通じて、動詞として文末に用いることのできる“期待”には六種類の状況があることを明らかにした。同時に名称格の“期待”が文末に用いられないことも明らかにした。文末に用いることのできる“期待”には“期待’(u)”と文全体が含意関係である。文全体とは、文法上成立する文であり、“期待’(u)”の充分条件であるが、“期待’(u)”は文法的に的確な文を導き出せない。“期待’(u)”は文全体が成立する必要条件ではないとも言える。“期待’(u)”はある文が成立する必要な要素としか見なせない。それゆえ、単独の文として、それは成立しないのである。このこともなぜ名称格の“期待”が文末に用いることができないかの原因である。

“期待”に類似する心理動詞、たとえば、“期盼”、“盼望”などの心理動詞も単独で文末に用いるのは難しい。これらの心理動詞が文末に用いることができるか否かは“期待”と同じような共通点があるのだろうか。この点は筆者の今後の研究課題とする。これらの心理動詞の分析を通じて、今後の研究に文末に用いるこれらの心理動詞の一般的な規則を明らかにできることを望んでいる。

参考文献

- 青木萌 (2014) “時態副詞 “在” が表す二つの進行の論理意味分析”《人文研究》 NO. 182
- 杉本孝司 (1998) 《意味論 1 - 形式意味論》, 東京: くろしお出版。
- 朱德熙 (1982) 《语法讲义》北京: 商务印书馆。
- 吕叔湘主编 (2015) 《现代汉语八百词(增订本)》, 北京: 商务印书馆。
- 刘月华 (1983) 《实用现代汉语语法》, 上海: 外语教学与研究出版社